

【資料編】 住民用アンケート_集計結果

全応答人数 546 (名)

■【属性】 回答者様ご自身についてお聞かせください。

※いずれも回答者ご自身において当てはまる番号に「○」をしてください。

問1：年齢を選択してください。

年 齢	人 数	割合
70代以上	201	36.8%
60代	136	24.9%
50代	79	14.5%
40代	67	12.3%
30代	34	6.2%
20代	15	2.7%
10代	14	2.6%
合 計	546	100.0%

問2：ご職業を選択してください。

職 業	人 数	割合
無職	123	22.5%
会社員	117	21.4%
パート・アルバイト	69	12.6%
自営業（農業）	60	11.0%
家事専業	57	10.4%
自営業（農業以外）	53	9.7%
その他	31	5.7%
公務員	19	3.5%
学生	17	3.1%
合 計	546	100.0%

問3：居住形態

居住形態	人 数	割合
持家（一戸建て）	499	91.4%
その他	19	3.5%
民間賃貸住宅	13	2.4%
持家（一戸建て以外）	5	0.9%
公営住宅	5	0.9%
社宅等	5	0.9%
合 計	546	100.0%

問4：居住年数 (※1)

(※1) あなたが居住する住所の世帯主様の居住年数

居住年数	人数	割合
10 ～ 19年	103	18.9%
20 ～ 29年	90	16.5%
0 ～ 4年	68	12.5%
30 ～ 39年	68	12.5%
5 ～ 9年	61	11.2%
40 ～ 49年	45	8.2%
60 ～ 69年	39	7.1%
50 ～ 59年	32	5.9%
70 ～ 79年	26	4.8%
80 ～ 89年	9	1.6%
100年以上	5	0.9%
90 ～ 99年	0	0.0%
合 計	546	100.0%

問5：居住地を選択してください。

居住地	人数	割合
原山自治会	104	19.0%
弘沢地区	92	16.8%
中新田地区	84	15.4%
柏木地区	40	7.3%
室内地区	34	6.2%
八ツ手地区	31	5.7%
柳沢地区	26	4.8%
上里地区	26	4.8%
南原地区	21	3.8%
やつがね地区	21	3.8%
菖蒲沢地区	19	3.5%
大久保地区	18	3.3%
ペンション区	17	3.1%
判之木地区	8	1.5%
農場地区	5	0.9%
合 計	546	100.0%

■【意識調査】 地球温暖化についてお聞きします。

※当てはまる番号に「○」をしてください。

Q1：地球温暖化問題への関心の度合いについてお聞かせください。

球温暖化問題への関心度	人 数	割合
とても関心がある	248	45.4%
やや関心がある	233	42.7%
それほど関心はない	47	8.6%
関心がない	18	3.3%
合 計	546	100.0%

Q2：地球温暖化の影響で不安に感じることは何ですか。（3つまで）

地球温暖化や気候変動リスクに対する意識度	延べ人数（複数回答）	割合
異常気象による干ばつや大洪水など災害発生（水害や渇水の危険性の増大）	423	27.9%
農業や漁業への影響（栽培品種の変化、不作・不漁、病害虫の異常発生など）	270	17.8%
健康への影響（熱中病、伝染病の拡大など）	214	14.1%
生態系への影響（動植物の生息域の変化、種の絶滅など）	192	12.7%
冷暖房などエネルギー使用量の増加にともなう家計負担への影響	154	10.2%
食料価格上昇による家計負担への影響	154	10.2%
海面の上昇による陸地の消滅	63	4.2%
自然資源を活用した観光やレジャーへの影響（スキー場や季節に応じた祭りなど）	16	1.1%
特に不安に感じることはない	13	0.9%
わからない	13	0.9%
その他	4	0.3%
合 計		100.0%

Q3：以下の地球温暖化問題に対する考えについて、あなたの考えに近いものをお聞かせください。

球温暖化問題に対する考え方	人 数	割合
自分が何をして良いかわからないが、地球温暖化問題は解決すべきと思う	176	32.2%
地球温暖化問題は、企業や行政が責任をもって、取り組むべきだと思う	161	29.5%
自分の現在の生活様式を変えていかなければ、解決できないと思う	153	28.0%
その他	29	5.3%
自分の現在の生活様式を変えなくても、大丈夫だと思う	16	2.9%
自分が取り組まなくても、技術の進歩で解決できると思う	11	2.0%
合 計	546	100.0%

Q4：日本で消費されるエネルギー資源のほとんどを海外からの輸入に頼っている現状について、あなたの考えに近いものをお聞かせください。

エネルギー資源に対する関心度	人数	割合
エネルギー資源の自給自足を図るべきである	370	67.8%
継続して輸入できるようにすべきである	100	18.3%
特に考えていない	42	7.7%
その他	23	4.2%
このような現状をはじめて知った	11	2.0%
合計	546	100.0%

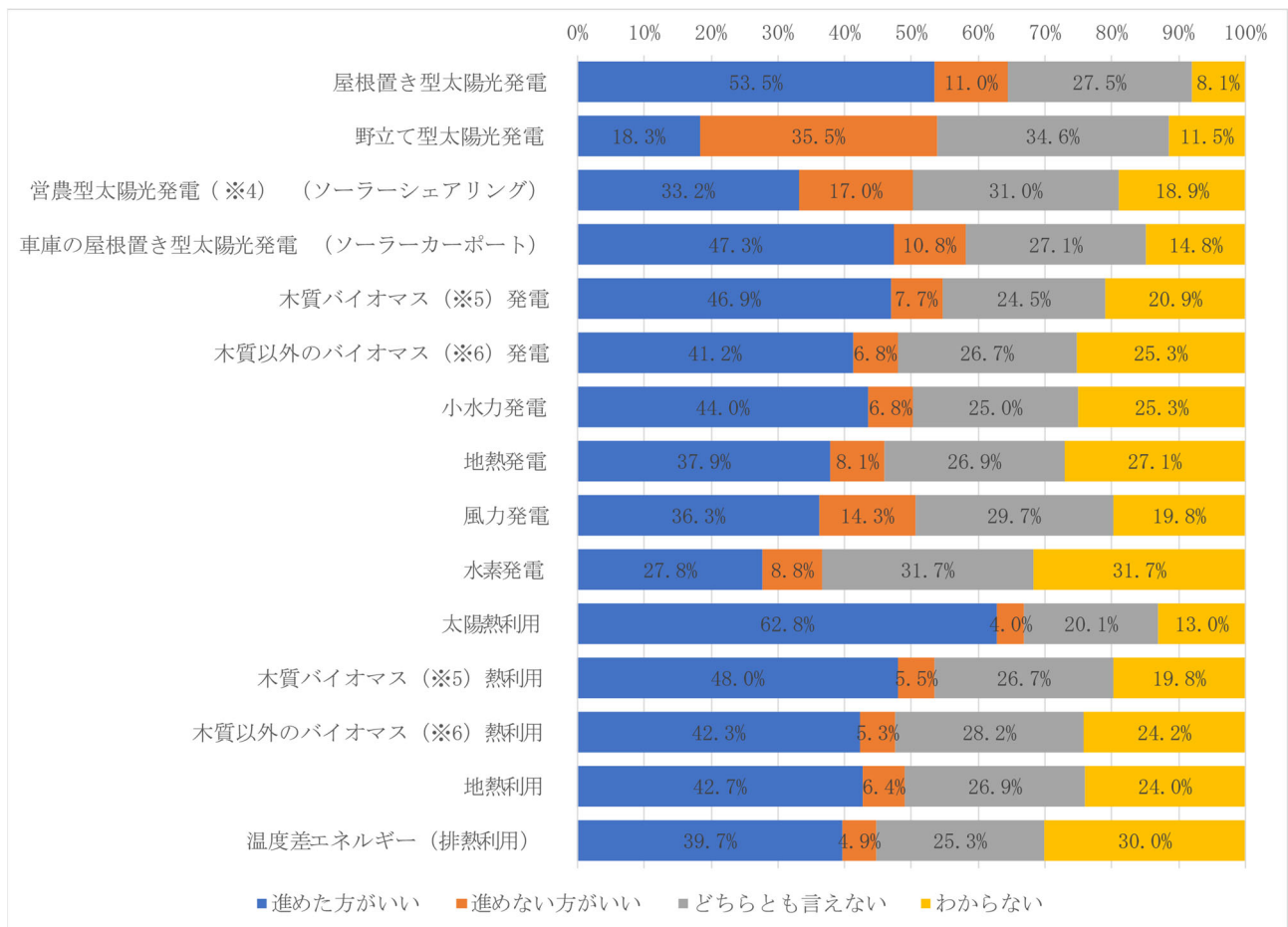
Q5：地球温暖化の影響を「緩和」するためには、普段の生活の中で化石燃料等のエネルギー消費量を減らし、温室効果ガスの排出量を抑えることが大切です。以下の中から地球温暖化対策について適していると思われるものをお聞かせください。（3つまで）

地球温暖化対策についての関心度	延べ人数（複数回答）	割合
太陽光発電、風力発電、太陽熱利用など、再生可能エネルギー（※2）の利用促進	376	25.0%
リサイクルなど資源の有効利用の促進	226	15.0%
地球温暖化防止に役立つ技術開発の推進	188	12.5%
植樹や樹木の維持管理の促進	164	10.9%
省エネ家電・省エネ住宅の普及促進	123	8.2%
電気自動車やハイブリッド自動車などの環境にやさしい自動車の普及促進	106	7.0%
環境に配慮した企業活動、産業活動の推進	98	6.5%
コミュニティバスなどの公共交通機関の充実	51	3.4%
学校や地域などにおける環境学習の充実	47	3.1%
温室効果ガスの排出に対する条例などによる規制	36	2.4%
地球温暖化についての情報提供や広報活動の促進	35	2.3%
村民、団体などによる率先した地球温暖化防止活動の推進	32	2.1%
その他	24	1.6%
合計		100.0%

（※2） 再生可能エネルギーとは、自然界に存在する持続的に利用することができるエネルギー（非化石燃料）を指す。（例：太陽光、水力、風力、バイオマス^{（※3）}、地熱など）。以下、省略して「再エネ」と称する場合があります。

（※3） バイオマスとは、動植物などから生まれた生物資源の総称。木質バイオマスは、地域の間伐材や製材廃材等の木質系の生物資源をいう。木質以外のバイオマスは、農業残さ、家畜排せつ物、生ごみ（食物残さ）、下水汚泥等の生物資源をいう。

Q6：今後の原村内においての再生可能エネルギー導入についてのお考えをお聞かせください。



- (※4) 営農型太陽光発電とは、農地に支柱を立てて上部空間に太陽光発電設備を設置し、太陽光を農業生産と発電で共有する取り組み。農作物と太陽光パネルで太陽の日差しを「シェア」して活用しているのが、「ソーラーシェアリング」とも呼ばれる。営農型太陽光発電は、農業と再生可能エネルギーを結びつけられる。
- (※5) 木質バイオマスとは、動植物などから生まれた生物資源であるバイオマスの中で、地域の間伐材や製材廃材等の木質系の生物資源をいう。
- (※6) 木質以外のバイオマスは、農業残さ、家畜排せつ物、生ごみ（食物残さ）、下水汚泥等の生物資源をいう。

Q7：「気候変動危機への適応^(※7)」という言葉をお聞きですか。

気候関連に対する関心度	人数	割合
なんとなく知っている	207	37.9%
聞いたことはある	128	23.4%
今回、初めて知った	118	21.6%
よく知っている	93	17.0%
合計	546	100.0%

- (※7) 気候変動危機への適応とは、気候変動による悪影響（自然災害、熱中症、農作物の品質悪化など）を回避・軽減するための取組のこと。

Q8：「気候変動危機への適応」について、日頃から取り組んでいることをお聞かせください。（3つまで）

気候変動危機に対する取組	延べ人数（複数回答）	割合
気象情報をこまめに確認する	351	28.4%
熱中症への対策をとる	277	22.4%
日頃から節水を心がける	157	12.7%
防災用具を準備しておく	153	12.4%
防災地図（ハザードマップ）などを日頃から確認しておく	127	10.3%
特に取り組んでいない	88	7.1%
防災訓練に参加する	43	3.5%
気象災害用の保健に加入する	18	1.5%
感染症を防ぐため薬や蚊帳などを使う	12	1.0%
その他	12	1.0%
合 計		100.0%

Q9：原村全体として取り組むべき気候変動危機への適応について、特に必要だと考える分野をお聞かせください。（3つまで）

取り組むべき気候変動危機への適応	延べ人数（複数回答）	割合
自然災害分野（短時間強雨や大雨、土砂災害への対策など）	438	31.3%
農業分野（農作物への高温障害への対策など）	326	23.3%
健康分野（熱中症や感染症への対策など）	229	16.4%
水環境分野（水不足への対策など）	191	13.6%
産業・観光分野（事業活動や観光産業に対する影響の対策など）	79	5.6%
自然分野（絶滅の危機がある動植物の保全対策など）	117	8.4%
その他	15	1.1%
特に取り組む必要はない	5	0.4%
合 計		100.0%

Q10：地球温暖化対策のために、原村全体として、中期的（2030年頃まで）に重視すべき方向性について、考えをお聞かせください。（3つまで）

中期的（2030年頃まで）に重視すべき方向性	延べ人数（複数回答）	割合
ごみの排出を抑えて、再利用とリサイクルが普及した循環型社会が実現している村	318	23.0%
豊かな村の緑を守り、森林資源（木質バイオマス）の利用が進んだ村	315	22.8%
環境教育を促進し、子供からお年寄りまで皆で一緒に取り組める村	193	14.0%
太陽光発電や風力発電等の再生可能エネルギーが普及した村	189	13.7%
気候変動による健康被害（熱中症など）や自然災害に対する適応策が浸透している村	159	11.5%
村全体で脱炭素化（CO2の排出量ゼロを目指す）に向けた活動が浸透している村	145	10.5%
「水素社会」を目指し、水素エネルギーを生かした村	40	2.9%
その他	22	1.6%
合 計		100.0%

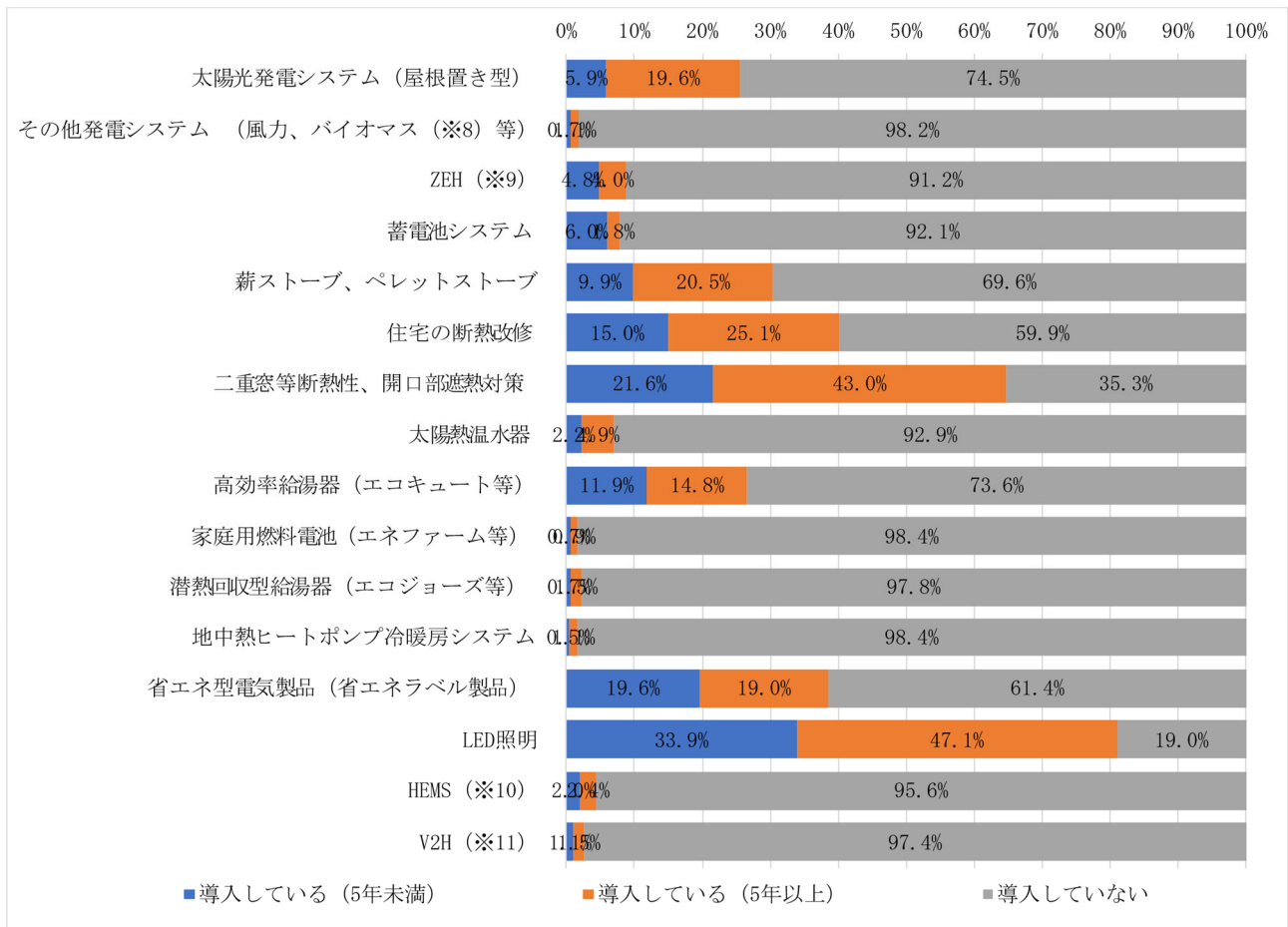
Q11：私たちの生活水準の保持と自然環境の保全との関係について、どのようにお考えか、お聞かせください。（1つだけ）

生活水準の保持と自然環境の保全との関係性	人 数	割合
生活水準の保持も、自然環境の保全も両立させる必要がある	272	49.8%
現在の生活水準を多少変えてでも、自然環境の保全を行う必要がある	127	23.3%
現在の生活水準を変えない範囲で、自然環境の保全を行う必要がある	74	13.6%
自然環境の保全を最優先に行う必要がある	37	6.8%
わからない	28	5.1%
自然環境の保全よりも、生活水準を向上させる方が重要である	8	1.5%
合 計	546	100.0%

■【実態調査】 再エネ・省エネについてお聞きします。

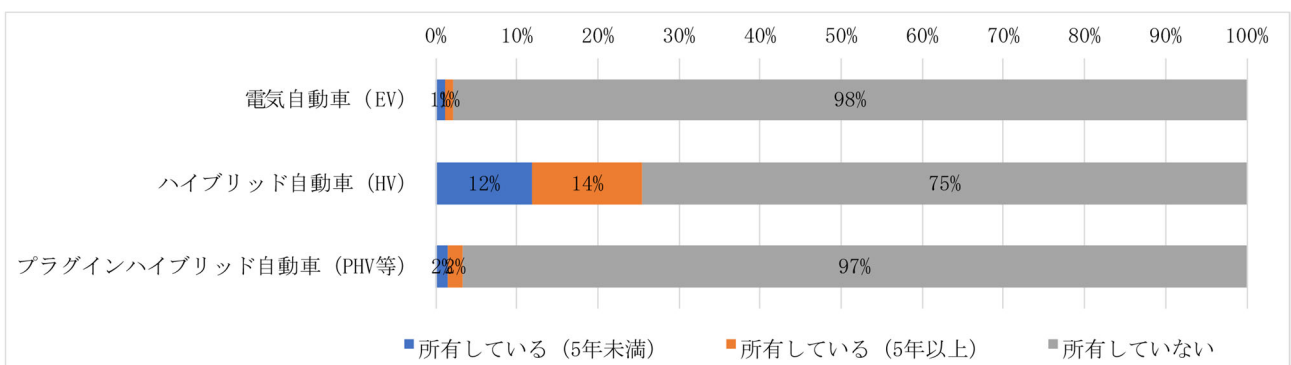
※当てはまる番号に「○」を、又は記入をしてください。

Q12: 現在、ご自宅において再エネ・省エネ機器・設備等の保有状況について、当てはまる番号に「○」をしてください。



- (※8) バイオマスとは、動植物などから生まれた生物資源の総称。木質バイオマスは、地域の間伐材や製材廃材等の木質系の生物資源をいう。木質以外のバイオマスは、農業残さ、家畜排せつ物、生ごみ（食物残さ）、下水汚泥等の生物資源をいう。
- (※9) ZEH とは外側の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネを実現した上で、再エネの導入により、年間エネルギー消費量がゼロ以下となることを目指した住宅のことをいう。
- (※10) HEMS とは「Home Energy Management System (ホーム エネルギー マネジメント システム)」の略。家庭で使うエネルギーを節約するための管理システムです。家電や電気設備とつないで、電気やガスなどの使用量をモニター画面などで「見える化」し、家電機器を「自動制御」できる。
- (※11) V2Hとは「Vehicle to Home」の略で、日本語訳すると『クルマから家へ』という意味の言葉。具体的には、電気自動車 (EV) に貯めている電気を住宅でも使えるシステム、仕組みのことをV2Hと呼ぶ。







Q13: 現在、クリーンエネルギー自動車 (※12) を所有していますか? 当てはまる番号に「○」をしてください。



(※12) クリーンエネルギー自動車とは、走行時の排出ガスが少ない、または全く出ない自動車のことをいう。

車種	略称	動力	燃料
① 電気自動車	EV	モーター	充電
② ハイブリッド自動車	HV	エンジン+モーター	ガソリン
③ プラグインハイブリッド自動車	PHV等	エンジン+モーター	充電+ガソリン

Q14：現在、再エネ設備、省エネ設備、それぞれの導入に際して課題に感じていることについて、当
てはまる番号に「○」をしてください。

設備に係る費用が高い		381	52.6%
設置によるメリットやデメリット、効果的な手法など、詳しい内容がよくわからない		130	18.0%
建物の構造上、設置が難しい		108	14.9%
どこに相談してよいのかわからない		40	5.5%
その他		35	4.8%
特に課題はない		30	4.1%
合計			100.0%

■【要望調査】行政の地球温暖化対策についてお聞きします。

※当てはまる番号に「○」を、又は記入をしてください。

Q15：地球温暖化対策を進めるにあたり、原村全体でどんな取り組みが必要であると思われるか、お聞かせください。（3つまで）

地球温暖化対策に対する原村の取組み	延べ人数（複数回答）	割合
再生可能エネルギーの導入を進める	238	16.7%
森林整備を進める（間伐、植樹等）	238	16.7%
ごみの減量化やリサイクルを徹底する	143	10.0%
公共交通（バス、タクシー、電車等）の交通体系を改善する	110	7.7%
国、県、村等による一般住宅や事業所への補助・助成を拡大する	109	7.7%
住宅や建築物の省エネ化（ZEH（※13）、ZEB（※14））を進める	103	7.2%
電気自動車や燃料電池車などの次世代自動車の導入を進める	80	5.6%
省エネ行動を心がけるなどのライフスタイルを見直す	75	5.3%
家電製品等の省エネ化を進める	65	4.6%
環境教育・学習を充実させる	65	4.6%
環境情報を広く一般に提供する	43	3.0%
工場・店舗などの事業所において省エネ化を進める	40	2.8%
水素エネルギー等、次世代エネルギーの活用を促進する	39	2.7%
二酸化炭素固定技術などの新しい技術を研究し開発する	21	1.5%
炭素税の導入、低公害車への優遇措置などの経済的取組みを展開する	20	1.4%
物流などの運輸体系を改善する	18	1.3%
その他	17	1.2%
合計		100.0%

（※13） ZEH（ゼッチ）とは、「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」の略。
電気や熱などのエネルギー使用量を多く減らすために、住宅の断熱性能や省エネ性能を向上し、さらに太陽光発電などの再生可能エネルギーを利用して生活に必要なエネルギーをつくり出すことにより、年間の一次消費エネルギー量（空調・給湯・照明・換気）をおおむねゼロ以下にする住宅のこと。

（※14） ZEB（ゼフ）とは、「ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング」の略。
電気や熱などのエネルギー使用量を多く減らすために、建物の断熱性能や省エネ性能を向上し、さらに太陽光発電などの再生可能エネルギーを利用して生活に必要なエネルギーをつくり出すことにより、建物の一次消費エネルギー量（空調・給湯・照明・換気）が計算上ゼロエネルギーの建物のこと。

Q16：原村は、茅野市、富士見町とともに2021年12月に八ヶ岳西麓豊かな自然環境と共生する未来に向けた共同宣言（※15）を行い、現在、3市町村で地球温暖化対策の分野においても協議を行っている状況です。3市町村で進めていく取組みに期待することなどがあれば、お聞かせください。

応答 155（有効 148）※【資料編】住民用 アンケート__記述回答集計結果参照

- （※15） 八ヶ岳西麓豊かな自然環境と共生する未来に向けた共同宣言：茅野市、原村、富士見町は2021年12月16日に以下の3点を共同で宣言した。
- ・ 私たちは、八ヶ岳西麓において、緑豊かな自然環境や優れた景観等が阻害され、また、災害の発生が危惧されるなど、地域の理解が得られない野立て型太陽光発電設備の設置を望みません。
 - ・ 私たちは、地球温暖化対策の取組強化にあたり太陽光発電推進の分野においては、長野県と連携して屋根置き型太陽光発電設備と蓄電池の普及促進を目指します。
 - ・ 私たちは、この共同宣言を契機にして八ヶ岳西麓一帯の環境、観光、農業面等での振興策について、改めて協議を進めていきます。

Q17：長野県及び原村に既存住宅の屋根への太陽光発電設備及び蓄電池の設置に対する補助制度^(※16)があることをご存じですか。

(※16) 既存住宅の屋根への太陽光発電設備及び蓄電池の設置に対する補助制度：県及び村の両方を合わせて最大 30 万円の補助金。

太陽光発電設備及び蓄電池の設置に対する補助制度の周知度	人 数	割合
聞いたことはあるが内容は知らない	263	48.2%
聞いたことがない	186	34.1%
内容を知っている	97	17.8%
合 計	546	100.0%

Q18：原村に省エネ家電製品への買い換えに対する補助制度^(※17)があることをご存じですか。

(※17) 諏訪地域6市町村内の店舗・事業所において省エネ性能の高い家電製品に買い換えた個人に対する補助制度。
対象製品：購入時点において経済産業省が定める最新の省エネ基準達成率 100%以上の冷蔵庫、エアコン、テレビ、LED 照明（電球は除く）

省エネ家電製品への買い換えに対する補助制度の周知度	人 数	割合
聞いたことがない	213	39.0%
聞いたことはあるが内容は知らない	194	35.5%
内容を知っている	139	25.5%
合 計	546	100.0%

Q19：原村では、地球温暖化対策について様々な地域課題との同時解決が可能と考えています。地球温暖化の影響のみにとどまらず、現状地域において課題だと感じていることをお聞かせください。
(自然、景観(ゴミ)、温暖化による暮らしの変化、観光、農業、林業、交通、防災、福祉等)

応答 192 (有効 190) ※【資料編】住民用 アンケート__記述回答集計結果参照

Q20：地球温暖化対策についての情報は、どちらから得ていますか。(当てはまる番号全てに「○」をしてください)

情報への感度	延べ人数 (複数回答)	割合
テレビ・ラジオ	321	31.0%
インターネット	245	23.6%
新聞	235	22.7%
広報はら	151	14.6%
書籍・雑誌・専門誌	55	5.3%
その他	30	2.9%
合 計		100.0%

Q21：原村の地球温暖化対策・エネルギー政策への提案など、ご意見があればお聞かせください。

応答 145 (有効 137) ※【資料編】住民用 アンケート__記述回答集計結果参照